

最先端観光コンテンツ インキュベーター事業
「夜間の観光資源活性化に関する協議会」第3回 議事要旨

- 日 時： 2019年2月4日（月）13:00～15:00
場 所： AP東京八重洲通りFG会議室（KPP八重洲ビル12階）
出席者： 別紙参照
議 題： 1. ナイトタイムエコノミー推進の課題と課題解決の方向性
（前回指摘事項、安心安全の確保）
2. 調査結果報告
（夜間交通、モデル事業）
3. 協議会のとりまとめ

開会の挨拶後、事務局より本事業の趣旨・目的について、及び本事業について説明し、議論を行った。以下、その要約。

1. ナイトタイムエコノミー推進の課題と課題解決の方向性

(1) 前回指摘事項

【プロモーション】

- 食を例にとると、大手サイトでベスト10として紹介されているレストランと、実際に日本で人気のあるレストランとの間に乖離があると感じている。日本の食を魅力的に大手サイト等で発信できるよう口コミ等の活用方法を検討すべきではないか。
- 資料編10ページの整理はよいと感じる。ただ大手プラットフォームの手数料は高いと認識している。そのため、事業者がマーケティングを行うことで商材の適切な価格設定をし、利益を上げなければビジネスとして成り立たないという点を伝えられるようにしたい。
- プロモーションは国主導よりも民間主導にて実施するほうがうまくいくと感じる。また、プロモーションだけに限らず、ナイトタイムエコノミー振興のための取組を自治体や民間事業者にどう実施してもらうかが重要ではないか。
- プロモーションに関して、ターゲットに合わせたメディアの選び方や使い方の具体論まで落とすべきだと考えている。また、その情報は継続的なメンテナンスをすべきだが、この作業はどこが担うのか。
 - 今回のwebアンケートにおいて、訪日外国人がどのような手段を用いて情報収集しているかを調査しているため、次年度以降の参考としたい。メンテナンスの主体に関しては、今後対応を検討したい。（観光庁）
 - 国レベルで担当すべきものは観光庁の次年度以降の事業で、自治体向け

の示唆に関してはナレッジ集に反映させたい。(観光庁)

- 自治体レベルでの取り組みをまとめる司令塔の役割を設置することと、先ほど言及したメンテナンス機能の担い手と予算について検討すべきである。
- 都市部と比較し、地方での最大の課題は多言語対応である。個人のコンテンツホルダーで対応することは難しいと感じるため、DMO等がサービスとして代替することとしてはいかがか。
- 地方におけるきめ細やかなイベント情報等の発信を、大手事業者が一括して担うことは規模感や価格の点から課題が多いと感じるため、各地域に精通した人材を活用すべきである。
- プロモーションに関して、DMOが中心となっている Visit London や NYC などの海外事例については、すでにそこにノウハウが蓄積されている。日本における解決策は本協議会では出せないが、プロモーションは重要なテーマであるので、次年度以降に解決方法を検討するため、ナレッジ集等で課題を明確に示した方がよいのではないか。

(2) 安心安全の確保

- 東京都等と連携して実施している六本木アートナイトにおいて、主催者が把握する限り、夜だからという理由での大きな事件は発生していない。その理由としては、イベントの文化性が高いことや、人手が多く出ていたことでむしろ人の目が監視機能の役割を果たしていること、何より主催者が安全面の確保に努めたことが挙げられると思う。これは官民連携で取り組んだ良い例だと感じている。
- 深夜に酒類を提供する店に対し、酔いが激しい利用客へ酒類の提供を控える等の情報が盛り込まれたガイドラインを作るよう自治体等に働きかけてはいかがか。
- コンビニの周りにはごみが散乱しているなどの状況も目に付き、コンビニの協力状況がよくないと感じている。今後、コンビニと提携を図り、ナイトスタンドを作るような取り組みをしてはいかがか。
- 地域に顔が見えない事業者も多くいるため、町会活動に参加してもらうなど地域と関りを持てるような誘導、指導があるとよいのではないか。
- 地域でのナイトタイムに関する課題を民間団体が警察に伝え、これら地域の意見を警察行政に反映させることができる仕組みを広めていく必要がある。警察行政が安心安全確保の重要なステークホルダーであることを位置づけ、認識させることで各地域に即した安心安全の仕組みが整うのではないか。
- 地域によって安全確保に必要な要素は異なるため、警察行政との連携と地域のニーズに合った財源を使えるような仕組みを検討してはいかがか。
- 課題解決の方向性③に記載されている「受益者からの財源確保の仕組みづく

り」に関しては、受益者の定義付けが困難であると考え、行政や地域のサポートがあるのであれば、プロモーションと関連付けてポータルサイトに載せたコンテンツ事業者から財源を徴収する方向性はいかがか。プラットフォームにコンテンツの情報を掲載、何か問題が起きた際には掲載の取り消し等の運営面での対応も可能である。

- 交番の存在は安心安全の確保において重要であり、国内のみならず KOBAN のネームバリューもある。交番を安心安全確保のための起点として利用することにより安心安全の1つのポイントになるのではないか。
- 安心安全の仕組みを整備するうえで、推進体制も重要な視点であるとする。アムステルダムでは事業者がプラットフォームを整備し、迅速にコミュニケーションを図り安心安全を確保している例があり、日本においても事業者にそうした役割を担ってもらいたい。そのためには、ナイトタイムエコノミーに関してわかりやすい施策や目標を打ち出すことができるとよい。昨年講演頂いた Mirik 氏の話も参考として資料に入れるとよいのではないか。(伏谷委員)
- 自治体等が実際に安心安全の確保ができる仕組みを運用できるよう検討すべきであり、実践してほしい。

2. 調査結果報告（モデル事業）

- 次年度以降、国の補助なく自立的に継続実施が期待できるモデル事業を教えてください。モデル事業の実施は、今後自力で継続できるコンテンツを創出するために行ったものだと認識している。
 - どのモデル事業も現在、結果を分析し、今後の継続に関して検討を行っているところと認識している。(観光庁)
- 石見神楽で実施されたコンテンツの使用言語は日本語のみで実施したのか教えてください。
 - ツアー実施に関しては、英語のみで実施した。(事務局)

3. 協議会のとりまとめ

ガイドライン（ナレッジ集）作成状況報告

- 経済効果に関して、地方部にとって最大の経済効果をもたらすのは宿泊であり、そのためにナイトタイムエコノミーの開発が重要であるということを知りやすく記載すべきである。
- お祭りについては、観光客にお金を落とさせる仕組み作りが重要な観点であることを記載すべき。
- 「ナイトタイム」を好む層の特徴について、ターゲット層が短期滞在型であると記載されている。統計上の結果だと考えられるが、今後、長期滞在目的の外

国人観光客も誘客するべきであるという視点も付け加えるべきである。

- マスタープランは DMO や役所が作成の役割を担うと想定されるが、知見が不足しているため、横並びのマスタープランしかできないケースが多いと予想される。よって、各地域で、知見や情熱を持った人物からなるチームを組成し、そのチームが主体となって、地域のステークホルダーを巻き込んで自走する仕組みを作ることが実効性のある進め方と想定される。そのような書き方に変えた方がいいのではないか。
- コンテンツ体系についてはもっと事例を充実させ、大分類だけではなく、国内外の事例を小分類に分け、分かりやすく記載してはいかかがか。また、分類毎に大事な要素、参考とすべき事例を示すべきである。
- 交通アクセスにおいては、「コンテンツや宿泊施設の集積状況から、最適な夜間交通を整備すべき」というメッセージを明確化すべきである。交通事業者を動かすためには、路線、曜日、時間帯とそれに対応した想定需要といった具体的な議論を展開する必要がある。
- ナレッジ集の視点として、経済的な視点に偏り過ぎていると感じる。長期的な目線で各地域に潜在している観光資源を顕在化させ、コンテンツをマネタイズしていくような方向性を持ち、日本は民度、文化度が高いということを世界に発信していくような内容が必要ではないか。
- 海外での先進事例を数多く見せることで、ナイトタイムエコノミーのイメージが一般の人に伝わりやすくなると思う。そのために事例集をよりリッチにすべきである。
- 海外事例について、課題ごとの整理のみならず、ナイトタイムエコノミー先進都市の全体の面的な取組み例を見せることで利用者にとってわかりやすい資料となると思う。

以上